

脳血流 SPECT を施行した paraneoplastic limbic encephalitis の 1 例

土田龍郎, 伊藤春海

症 例

52 歳, 女性。

主 訴: ふらつき, めまい

現病歴: 1996 年 6 月, 左頸部, 後腹膜悪性リンパ腫にて化学療法施行, 完全寛解の状態であった。1999 年, 左耳閉塞感, 耳鳴があり, 近医にて突発性難聴と診断され, ステロイド治療にて軽快。その後, 主訴増強したため 2000 年 3 月当院に入院となる。

院現症, 血液生化学検査: 明らかな異常を認めず。

脳脊髄液検査: IgG の軽度上昇を認める。

神経学的所見: 左難聴, 小脳性失調, 左 1-3 指のしびれ感。

画像所見

MRI (Fig. 1); T2, FLAIR にて, 両側側頭葉内側に high intensity area を認める。

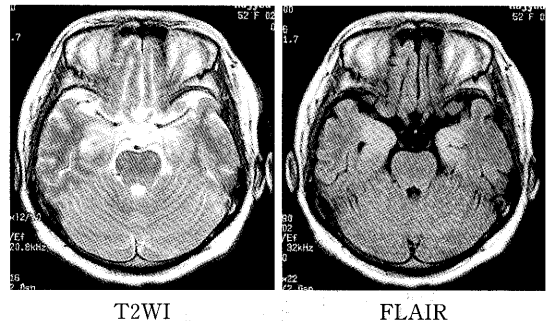
IMP SPECT (Fig. 2); 側頭葉内側に集積の増加を認める。

診 断

脳脊髄液より抗 Hu 抗体が検出され, paraneoplastic limbic encephalitis と診断された。

解 説

Paraneoplastic limbic encephalitis (PLE, 傍腫瘍性辺縁脳炎) は, 悪性腫瘍の '遠隔効果' による, 側頭葉内側部を主病変とする亜急性脳炎である。辺



T2WI

FLAIR

MRI

Fig. 1

縁脳炎の概念は 1960 年に Brierley ら¹⁾ により提唱されたが, 悪性腫瘍との関連に注目して辺縁脳炎を報告したのは, Corsellis ら²⁾ が最初である。

辺縁脳炎の名を冠しているが, 病変は辺縁系のみならず小脳, 脳幹, 神経節などの神経病変を合併し, その部分症状として見られることが多い。Gultekin ら³⁾ の報告によると, 肺小細胞癌や胚細胞腫での発症が多いとされている。また, PLE には抗 Hu 抗体や抗 Ma 2 抗体といった抗神経抗体の関与が示唆されており, これらの検出が診断に最も有用であるとされている。

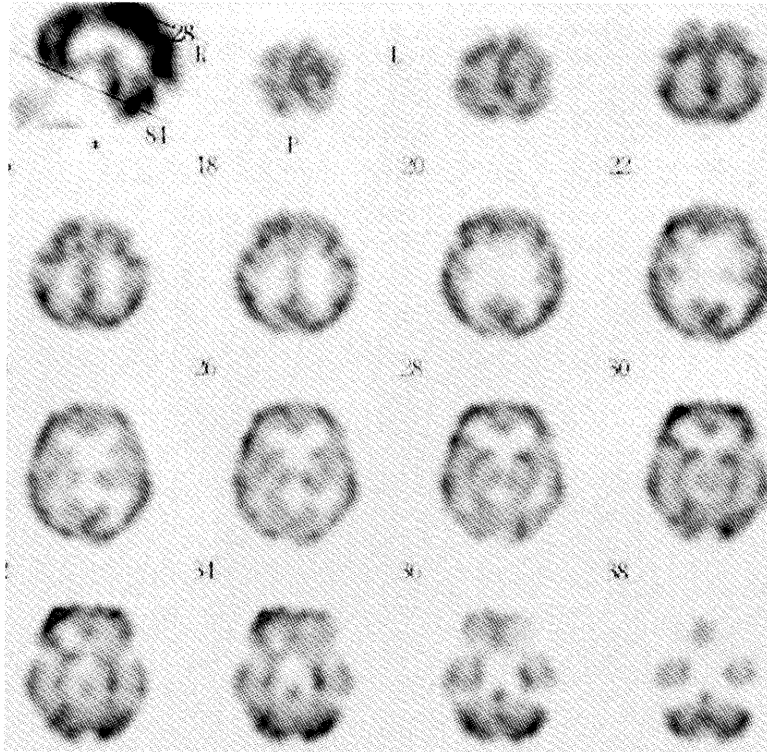
画像所見としては, MRI-T 2 weighted image における側頭葉内側の高信号や FDG-PET での側頭葉内側の集積低下が報告されているが, いずれも炎症所見を反映したものと考えられる。脳血流 SPECT においては, 側頭葉内側での集積低下や異常集積なしといった報告はあったが, 今回われわれが報告したような MRI で異常信号を呈した領域で

Brain perfusion SPECT in patient with paraneoplastic limbic encephalitis

Tatsuro Tsuchida, Harumi Itoh

Department of Radiology, Fukui Medical University

福井医科大学放射線科 〒910-1193 福井県吉田郡松岡町下合月 23



IMP-SPECT (transaxial)

Fig. 2

の集積亢進といったものは見られなかった。集積低下が報告された際に使用されたトレーサーは Tc-99 m ECD で、血流のみならず細胞障害を反映するともいわれており、脳血流 SPECT における所見の多様性はトレーサーの種類や病期の違いに起因するものと考えられた。

参考文献

- 1) Brierley JB, et al. : Subacute encephalitis of later adult life. Mainly affecting the limbic areas. *Brain* **83** : 357-368, 1960
- 2) Corsellis JAN, et al. : Limbic encephalitis and its association with carcinoma. *Brain* **91** : 481-498, 1968
- 3) Gultekin SH, et al. : Paraneoplastic limbic encephalitis: neurological symptoms, immunological findings and tumour association with 50 patients. *Brain* **123** : 1481-1494, 2000